

総務建設経済常任委員会会議記録

1. 期 日 令和元年5月22日(水) 開会 9時30分
閉会 10時47分
2. 場 所 第1委員会室
3. 付議事件 産業振興の推進について
①閉会中の活動のまとめ
・4月11日打合せ
・5月16日・17日視察研修
・1月25日全員協議会における報告など
②閉会中の継続調査の扱い
4. 出席者 二宮委員長、坂本副委員長、善波委員、羽根委員、杉崎委員、大沼委員、
根岸委員、野地議長
傍聴議員 1名
一般傍聴者 0名
議会事務局 3名(局長、課長、主事)
5. 経 過

産業振興の推進について

①閉会中の活動のまとめ

- ・4月11日打合せ
- ・5月16日・17日視察研修
- ・1月25日全員協議会における報告など

委員長 今回の議題だが、閉会中の活動のまとめと、継続調査の扱いについて進めて行きたい。先日行った視察の報告を申し上げる。(資料「視察研修報告書」を朗読)意見がある方はいるか。

根岸 宇都宮市のブランドについて書いてある資料について、後からの情報ではあるが、博報堂を使ったという大きな情報がある。こういうブランドの言葉が生まれていることは二宮との大きな違いである。そういう情報も載せると良い。

次にまとめ方であるが、カッコと丸印を使っているが、最初の箇所も丸印を使用し、形式をまとめた方が良い。3つ目のオープンカフェ事業のところは、NPO団体からの説明を受けたということがあるため、組織されている部分と一緒にまづくりが行われているという記載があればより分かると感じた。

杉崎 これがたたき台となり、新たに報告書つくるということでよいか。

委員長 そのとおりである。

杉崎 誤字脱字が結構あるため、注意していただきたい。3ページの下に常任委員会として振り返りとあるが、読んでみると、どうかと思う点がある。これも修正で

きるのか。

庶務課長 大沼議員がつくった記録があり、その後に打ち合わせした際に出たものを常任委員会として振り返りと箇条書きしている。今朝、大沼議員より今後の委員会にどのように活かしていくかというまとめの文書を送ってきていただいた。資料には組み込めていないが、印刷したものをこれから配付するので、あわせてご検討いただいた方がよい。誤字脱字については、昨日の夕方に事務局で気付いた部分は修正をしたが、まだできていない部分もあるので、後ほどお願いしたい。

杉崎 既に配付されている資料を上書きしたものか。

庶務課長 これとは違うものである。

杉崎 宇都宮は貸店舗制度とあるが、宇都宮市全体がと思われてしまう。少なくともユニオン、オニオン、キャニオン通りの3つだけを我々が見ている。2番目の購買がない、自然淘汰される、とあるが、二宮のことなのに主語が抜けている。記録が残るうえで、非常に重要なことである。

次に庁舎建設のことであるが、敷地は15,000㎡の後に駐車台数190台と足してほしい。3の庁内視察に夏場の熱を防ぐとあるが、同じようなことかもしれないが、太陽の光ではないか。少し戻るが、190台の駐車場は役場庁舎のみであり公民館が隣にあったが、別の駐車場がある。2枚目の積立の金額、町債については、当初より3億は積み立てたのは平成22年移以降、毎年、余剰金があれば積み立てていたという説明であった。

庶務課長 宇都宮市の方であるが、今回継続調査になっているのが産業振興ということであるため、庁舎のことは今おっしゃったように字句などの修正はしていただいて構わない。主に産業振興のところは今後、今回の継続調査に係るところで、お送りした資料の常任委員会としての振り返りの箇条書きになっている部分はいきるが、後からお配りした、今後の委員会にどのように活かしていくかという資料と合わせてまとめて文章化として正式に出していただいたほうが好ましいと思う。

杉崎 そうである。文章化した方がよいかもしれない。

委員長 流れは報告をさせていただき、皆さまいただいた随所の訂正については、訂正をする。また、常任委員会としての振り返りについては、改めて文書をつくらせていただく。本日ここで報告をするとともに、今後どのような調査をしていくかということに移りたいと思うがよろしいか。

議長 今、委員長がおっしゃったのは次第②の閉会中の継続調査の扱いに移ったのか。①の活動まとめについて意見があったため、一度ここで閉めた方がよいと思う。当初、委員長がおっしゃった内容といただいたご意見をまとめて一つのものにして報告するとなったが、いつ、誰が、どのようにするのかを決め、皆さんのご了承をいただいてからの方がよいと思う。

羽根 さっきの板倉町に関する資料についてだが、視察対応者の役職や所属部署がも

う少し詳細であったと思うため、確認と必要であれば訂正していただいた方が良いでしょう。

大沼 まだ議長が言ったことは終わってはいない。

委員長 改めて、この内容をもう一度まとめて皆さまに見ていただくこととするが、よろしいか。
 暫時、休憩とする。

休憩 10時09分

再開 10時15分

委員長 この内容に関しては正副委員長に一任していただいてよろしいか。
 (「異議なし。」という声あり)
 では、そのようにする。
 次に内容として、今後の閉会中の継続調査をどのようにしていくかということであるが、私もまとめて読ませていただいたが、宇都宮市を色々見てみると、永続的な努力により今日があると思ったところであるが、皆さまの意見を伺いたい。

大沼 視察をし、特にユニオン通り商店街では二宮町に重なるような部分もあり、だんだんと高齢化、状態が変わっていくというところで瞬時に切り替えができた模範的な商店街なのかなという印象を受けた。商店が潤うには、人がいなければ始まらない。町にとって一番必要なものは、人が集うということであると感じる。人の動きができれば、交通や利便性も向上してくるめ、住みやすくなる。単純な理論だが、活性化している商店街だからこそ、はっきりと見えるのかなという印象がある。従来から商店街から脱皮をするきっかけがあり、変化について明らかに見ることができた。その中で特徴的であったのは、空き店舗を貸し店舗に変換することで後継者を誘発し、新たな購買力を生むことに繋げている。二宮町の商店街の多くは住居と一緒にいるために、トイレや入口を分離しにくい構造になっている。町補助金などの対策が講じられれば貸し店舗として返還する余地も十分に考えられるのではないかと思う。さらに商店街が複数に分かれて存在しているため、一体としての取り組みが進めにくく、集中して大きなテーマをつくりあげようとするエネルギーの集中が難しいのかもしれない。テーマづくりのためにも、吾妻山の更なる開発、吾妻山物語の推進やメディア戦略、Wi-Fi 環境の向上、芸術性の向上、花の観賞、インスタグラムの繁栄を考えるなど、今ある資源に付加価値を付けて、新しい魅力の発信と、山西小学校方面からの道路整備などにより、交通環境を整える。救急、障害者、高齢者にも優しいインフラ整備も検討課題になり得ると考える。今後は観光を盛り上げ、産業振興に繋がる町づくりをテーマに研究を重ねていきたいと考える。

委員長 今後も産業振興の推進に研究テーマをしたいという意見であったが、皆さまはいかがか。

坂本 宇都宮の3つの商店街付近に大型店やホームセンターはなかったのか。

杉崎 デパートがあった。イトーヨーカドーのような大型店舗ではなかった。

根岸　　うさぎやに行かれた方は聞いたかもしれないが、中に車が入れないように環状線を通せという話があったが、もしできてしまったら、量販店に人が流れてしまう。うさぎやは環状線に面しており、どうしてもお客さんには少し苦勞をしたというお話しをされていた。それが商店街の中までどういう影響があったかまでは聞いていないが。

坂本　　今、視察に行った内容を聞き、宇都宮と二宮の商業の歴史が少し違うと思う。宇都宮の商店街は良くなればなるほど、それを狙った大型店がこれから傍に来ると思う。二宮は駅の両側に栄えた商店街がこの間まであった。ところが西友、ヤオハン、ロピアができ、そちらにどんどん人の方向が変わり、なおかつ、平塚ストアまでやめ、今の状況となっている。そのへんの歴史は二宮の方が先に済んでいると思う。宇都宮はこれからだと思う。繁盛して若い人が来ている傾向があるなら、都会的な若者を惹きつけるようなファッション店が来るのではないかと思う。

善波　　少し本題から外れるかもしれない。産業振興の推進について今後、継続調査をしていこうということだが、その中でも二宮に合った色々な分野がある。そのへの課題を抽出し、何が一番重要なのか研究をしていくべきだと思う。課題が商店街、観光的なことなのか絞っていかないと、やみくもに産業振興の推進についてではなく、ある程度テーマを絞ることにより、最終的には提言までもっていけると思う。

大沼　　坂本副委員長の質問に対してだが、私が見た宇都宮市の各商店街には大きなデパートがあった。その隣にも中規模程度のビルも建ち並んでいた。オリオン通り商店街は、川崎駅前のようなアーケードの付いた商店街で、店の数や品揃えも多く、かなり力のある商店が連ねていた。商店街会費は7万程度とかなり高額だが、支払うことができるくらい商売が活況である。そこから大きな道路一本隔てたところにユニオン通り商店街があり、アーケードがなく、道路の真ん中に線もなく、車の対面通行が難しいようなところである。元々あった商店街と想像できるような、古めかしい家屋が並ぶ。そこが生活用品を売られていた旧来の商店であったが、衰退していく中で、若い人の新たな開業により商店街がどんどん変わってきた背景があり、商業としては切磋琢磨しながらやっていかなければ、生き残れないというような楽な商店街ではないという印象を受けた。

議長　　坂本副委員長のご質問に対してだが、二荒山神社という一宮があり、参道として栄えていたことが広がっていったと感じている。近くにはパルコや109等があるが、今月末に撤退をする予定である。そうすると現在の商店街も、また変わった様相になるのが視察の現状である。善波委員がおっしゃったことについてだが、産業振興の推進についてというテーマは継続して調査、研究をした方が思っている。視察もふまえてだが、1次から6次産業までであると考えれば、二宮町においても大沼委員がおっしゃったとおり、人をいかに呼び込んで、町を活性化させるかということにつながってくるだろう。そのためには、町の顔である吾妻山を利用した観光に力を入れて活用しながら、町全体の産業振興に繋がっていかないと、総務建設経済常任会として調査をしていただき、最終的には委員会だけではなく、何かしらの提言を町長に対してするまで深めていただきたい。

委員長 先ほどのまとめでも読んだが、全く同じ状況下ではないが、商店街として永続的な努力を重ねてきて今日があると強く感じた。二宮の今後について、継続的に産業推進をテーマに掲げ、総務建設経済常任委員会として、議長の提案どおり、提言までむかえられる活動をしていきたいが、いかがか。

杉崎 期限はどうなるのか。いつまでに提言を出すのか。それを決めないとずるずるいつて改選になってしまう。もし出すのであれば、期限を決めた方がよい。研究のみなら期限は決めなくてもよい。

委員長 私の考えでは、明年の5月である。

羽根 今までご意見のとおり、産業振興の継続調査をしていきたい。目的としては、二宮町に訪れる方をいかに増やし、魅力を伝え、人口増につなげていく。1年でもできるかなとは思いますが、より深くやるには2年でも良いのかなと思う。

善波 人を呼び寄せる産業振興については視察で感じた。今の時代、個々の力で活性化しようというのはなかなかできない。宇都宮もまちづくり推進機構をつくり、商店街をまとめたりしている。二宮もそういう時代に入ってくる。商店街活性化のために第三者が入っていかなければならないし、商工会や観光協会を巻き込むため、時間がかかる。常任委員会はそれに対してリードやアドバイスをしていく必要があると思う。ある程度の期間をもって色々な研究をしていかなければならないと思う。

休憩 10時35分

再開 10時43分

委員長 テーマだが、このまま産業振興の推進について研究を続けていくということで異議はあるか。

(「異議なし」という声あり)

では、研究のテーマとさせていただきます。

議長 先ほど、期限を決めて提言書を出すべきという杉崎委員から意見があり、議論がなされていないため、意思を統一した方がよいと思う。

委員長 議長からご指摘があった提言の期限について、休憩中に話がまとまった。期限をつけるというよりも、もう少し深みをもって進めるためにはどうするかという調査をする。その内容によって期限を定めれば良いのではないかという話である。

杉崎 提言書を来年の9月を目途として出せるようにがんばるということではないのか。

坂本 委員長とスケジュールをつくる。次の委員会に職員を呼ぶなど。最低でも月に2回くらい委員会を持つなど。調査事項を日帰りで見に行くなどもしたい。うまくいけば提言を出せるというスケジュールをつくる。テーマもその間に絞っていくようにしていきたいがいかがか。

(「異議なし」という声あり)

委員長

副委員長の提言があり、スケジュールを出すこととする。また、次の委員会については、後日お知らせをすることとして、本日はこれにて閉会とする。

閉会 10 時 47 分